

1,帝国主義の成立

1873年恐慌❖aとその後の大不況→資本主義構造の変化=第二次()1革命(1865~1900)

❖a---1873年アメリカの多数の鉄道建設企業の倒産から発生した恐慌。ヨーロッパに波及。

┌化学・電気・石油・鉄鋼業の技術革新→鉄鋼・機械などの重工業が発達

└大企業による小企業の吸収, 企業の集中化 →()2資本の形成

⇒[]3=企業協定・[]4=企業合同・[]5=財閥など

┌企業に資金を提供する銀行資本と産業資本が融合⇒()6資本体制

イギリス・フランス---独占資本の形成で遅れ→()7輸出による優位

欧米列強→資本の投下先・原材料の供給地・製品の輸出市場を求める

⇒・()8・勢力圏の確保

┌帝国主義国間の対立⇒()9増強→対外膨張政策

└帝国主義国の国内 ┌階級対立が深まる→労働運動や()10主義運動が活発化

└対外膨張政策→このような不満を外にそらせる働き

┌他民族支配を正当化 ┌人種的・民族的な()11意識

└排外主義・軍国主義と結びついた愛国主義=()12

⇒世界史のなかでの新たな動き⇒()13主義

2,科学技術の発達

自然科学→19世紀さらに発展 産業への応用の点でめざましい進歩 技術革新

19世紀末 重化学工業化が進展=第2次産業革命

独マイヤー(1814~78)・ヘルムホルツ(1821~94) ---→()14保存の法則の発見

→内燃機関の革新・熱力学の発展

独[]12(1858~1913)---石油を動力としたディーゼル機関

()13(1834~1900)---ガソリンエンジンと自動車を発明

ジーメンス(1816~92) (兄)---発電機や電車を発明

米ライト兄弟(兄1867~1912, 弟1871~1948)---飛行機を発明

新しい動力源は()14と()15→鉄鋼業・化学工業・電気工業が飛躍的に進歩

電磁気学

英()16(1791~1867)---電磁誘導・反磁性体の発見

米モールス(1791~1872)---電信機の発明

()17(1847~1922)---電話の発明

エディソン(1847~1931)---白熱電球・映画・蓄音機

伊()18(1847~1931)---無線電信の発明

物理学

独[]19(1845~1923)---X線の発見

仏キュリー夫妻(夫1859~1906妻1867~1934) --- ()20など放射性元素の発見

→20世紀原子物理学の端緒

生物学・細菌学

仏パストール(1822~1895)---()21の発見と伝染病の治療

独コッホ(1843~1910)---()22・コレラ菌の発見

→細菌学の発達→治療法・予防法の確立

豪メンデル(1822~84) --- ()23の法則の発見

英()24(1809~82)---『種の起源』1859 →()25論の提唱

その他

ノーベル(1833~96)---()26の発明 →軍事技術の発達

3,新しい学問

ドイツ ---ニーチェ(1844~1900)「世紀末」「神の死」を強調、「超人」を讃美

ランケ(1795~1886)ら→「近代()27学」

オーストリア---フロイト(1856~1939)『 』28 『精神分析入門』→「精神分析学」

フランス ---コント(1798~1857)『実証哲学講義』など→「社会学」の創設

4,表現・造形芸術の新展開 写実主義と印象派

自然科学の発達→社会を直視、冷静に観察する風潮

文学---ロマン主義にかわる()29主義(リアリズム)・自然主義

○写実主義・自然主義のおもな作家と作品

スタンダール(仏)『 』30 イプセン(ノルウェー)『人形の家』

バルザック(仏)『人間喜劇』 ストリンドベリ(スウェーデン)『令嬢ジュリー』

フロベール(仏)『ボヴァリー夫人』 ゾラ(仏)『居酒屋』 ゴーゴリ(露)『検察官』

モーパッサン(仏)『 』31 トウルゲーネフ(露)『父と子』

サッカレー(英)『虚栄の市』 ドストエフスキー(露)『 』32『カラマーゾフの兄弟』

ディケンズ(英)『二都物語』 トルストイ(露)『 』33 チューホフ(露)『桜の園』

世紀末---()34主義・耽美主義の傾向←写実主義・自然主義への反動

仏のボードレール(1821~67)『 』35 ランボー(1854~91)『 』36

アイルランドのワイルド(1856~1900)『幸福な王子』『サロメ』

美術---写実主義・自然主義の絵画

ミレー(1814~75)・コロドー(1796~1875)・クールベ(1819~77)ら中心

[]37派---光と色彩を重んじて印象をそのまま表現しようとする

マネ(1832~83)・モネ(1840~1926)・ルノワール(1841~1919)の活躍

()38印象派

セザンヌ(1839~1906)・ゴーギャン(1848~1903)・ゴッホ(1853~90)

→ピカソら20世紀前衛絵画へ

19世紀末---アール・ヌーボー(新芸術)---絵画・建築・家具・工芸品などへも

彫刻---ロダン(1840~1917)---たんなる写実にとどまらず内面の心の動きを表現

音楽---印象派の影響→()39(1862~1918)らの作曲家→印象主義音楽

ワーグナー(1862~1918) 独自の総合芸術論→「楽劇」

シェーンベルク(1874~1951) →()40音楽・12音技法の確立



キュリー夫人



エジソン



ノーベル



イプセン



ゴーギャン(自画像)



ドビュッシー

- ・軍備 ・帝国 ・資本 ・社会 ・産業 ・独占 ・金融 ・象徴 ・差別 ・遺伝 ・歴史 ・後期 ・無調
- ・石炭 ・写実 ・進化 ・電気 ・植民地 ・病原菌 ・結核菌 ・『罪と罰』・『赤と黒』・『夢判断』
- ・『悪の華』 ・『女の一生』 ・『戦争と平和』 ・『地獄の一季節』 ・ベル ・ラジウム ・ダーウィン
- ・ダイムラー ・エネルギー ・ファラデー ・マルコーニ ・ドビュッシー ・ダイナマイト ・ナショナリズム